

新潟県

公民館だより

12

December 2022

No.822

TOPICS

下越地区社会教育 研究大会兼 公民館関係役員 等研修大会



会場の阿賀野市ふれあい会館

10月5日

(水)に下越地区の社会教育委員と公民館関係役職員のなどの皆さんの合同研修会が阿賀野市ふれあい会館で開催されました。対面とオンライン併用のハイブリッド方式で、会場に近い市町村の方は会場に、遠い市町村は少数の方が会場に、多くの方は地元のサテライト会場にお集まりで、総計94名の参加者でした。

開会式では鈴木一昭下越地区社会教育委員連絡協議会長の開会のあいさつ、小野裕子下越教育事務所長の祝辞、田中清善阿賀野市長の歓迎のあいさつがありました。



講師の坂井 文 様

た。続く講演の講師は「道の駅あがの」の駅長の坂井文様で、演題は「道の駅が地域にもたらす効果について」でした。地元在住で子育て世代の女性、食と農に携わる生協やNPOでの経験を生かした道の駅の開設準備や経営は、社会教育や公民館経営にも大いに参考になる内容でした。

その後の事例発表は、「土曜日学習支援について」新発田市の岩淵信也様、「コロナ禍における高齢者教育の手法」村上市の園部清貴様、「寿大学講座について」阿賀町の清田亮様、「いきいき・わくわくできる地域社会づくりを目指して」胎内市の新村勇一様・横内和幸様、「佐渡市における社会教育の進め方」佐渡市の片野優人様が行いました。

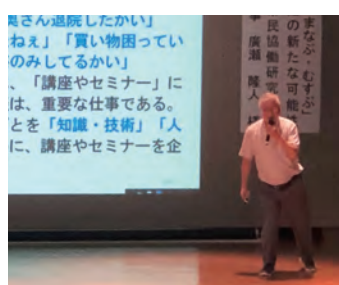
最後に下越教育事務所の鈴木智博社会教育課長が全体指導を行い、充実した会合が閉会しました。

第69回中越地区 公民館研究大会

10月4日(水)に中越地区公民館研究会が湯沢町公民館で開催されました。この大会も会場近くの市町村や役員・発表者などの方は対面で、遠方の方はオンラインでというハイブリッド方式で87名の参加者でした。

開会式では久保田千昭中越地区公民館連絡協議会会長の開会のあいさ

つ、太島誠中越教育事務社会教育課長と島村文男湯沢町教育長の来賓祝辞がありました。続く講演の演題は「つどう・まなぶ・むすぶ」公民館の新たな可能性」で、これは今回の研究大会の主題でもあります。講師はとちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人様で、国社研専門職員、宇都宮大学教授などを歴任された社会教育に大変詳しい方です。公民館とは何か？社会教育とは何か？をはじめ、社会教育と地域づくりや学校教育との関係などを熱量豊かにお話しいただきました。



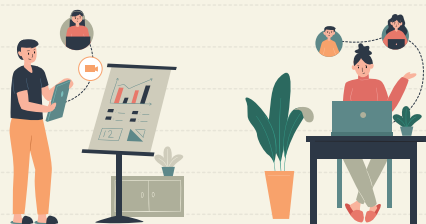
講演会講師 廣瀬 隆人 様

休憩後の事例発表では、津南町公民館長の内山純一様が「世界一の豪雪の里...?『津南町』」と題して豪雪地としての地域の特性と豊かさ・誇りを交えながら、公民館活動や図書室の様子を発表されました。



事例発表 内山 純一 様

コロナ禍で浮き彫りとなった 生活の課題に挑む公民館実践を



越村 康英 (弘前大学)



コロナ禍の公民館

「ああ、やつぱり…。」
今年の七月に公表された「令和三年度社会教育調査」の結果(中間報告)を目にした時、思わず口を衝いて出た言葉である。

コロナ禍にあった令和二年度間の実績が示されているが、いずれの社会教育施設でも「一施設当たりの利用者数」「学級・講座等の実施数」は著しく減少している。公民館については、「一施設当たりの利用者数」は九二六三人、コロナ前の平成二九年度間からの増減率はマイナス四二・〇%。他方、「学級・講座等の実施数」は三七万三三七〇件、増減率はマイナス三九・九%となっている。

思い返せば、令和二年度には、「新しい生活様式」の徹底が叫ばれ、二度にわたって緊急事態宣言が発出された。こうした状況の下で、公民館も休館や利用制限を余儀なくされ、多くの事業が中止・延期に追い込まれることとなった。今回の調査結果は、この厳しい現実を如実に表している。

学びを止めないために

人がつどい、交流し、共に学ぶ合うことを本旨としてきた公民館に

とって、つどいこと自体を制限されるというのは、これまで一度も経験したことのない事態であった。地域の人たちの姿が消えた公民館で、職員の方々は大きな不安とあきらめにも似た無力感に包まれていたことだろう。しかし、困難な状況のなかでも、「何かできないだろうか」と試行錯誤がかさねられていく。

当時は、いま以上にインターネット環境が整っていない公民館も多かったが、なんとか工夫して、オンラインを活用した事業(学習機会の提供)に取り組み公民館が増え始める。ユーチューブ等によるオンデマンド型の事業(動画配信)では、「おうち時間」の充実に役立つような学習コンテンツも多様に配信された。また、ズーム等のウェブ会議システムを用いた双方向型のオンライン事業への挑戦も見られるようになり、これまで公民館事業に参加していなかった(できなかった)新たな参加者層を得ることもつながった。

その他にも、各地の公民館で様々な試みが動き出す。ケーブルテレビによるテレビ講座の放送。コロナ禍で経済的に困窮している人たちを支援するフードドライブの取り組み。休館期間を活用した職員研修や会議。公民館が再開した時、みんなが心地

よく利用できるようにと地道に進められた館内整備。SNSや館報等による情報発信(コロナ禍での生活を楽しむようなメッセージの発信)。サークル活動や公民館事業に参加できなくなった方々に向けた、つながりを絶やさないための電話・手紙・メール等での声かけ等々。

そのひとつひとつは「ささやかな一歩」だったかも知れない。しかし、コロナ禍でも学びを止めないようにと葛藤を抱えつつも踏み出した「一歩」は、コロナ後の公民館を切り拓くことへと確実につながるはずである。

困難のなかで得られた気づき

今年の九月に実施された弘前市公民館関係職員研修会「地域事情に合わせて何か新しいことをやってみよう」でのことである。参加していた地区公民館の職員さんが、グループワークで何気なく語っていたことが強く印象に残った。それは次のような内容であった。

「コロナ禍だから、何かやると言っても、たくさんの方が集まるようなことは考えられない。もし、コロナが終息しても、そもそも地域の人口は減っていくわけだし、『たくさんの人を集めよう』という発想はナンセ

ンス。人を集めることではなく、これからはもっと丁寧に事業をやっていく必要があるのではないかと。」「

約三年に及ぶコロナ禍での公民館運営を経験し、困難な状況でも「できること」を模索してきたからこそ得ることができた「実感を伴う気づき」であり、きっと共感する職員さんも多いことだろう。

公民館事業の問い直し

誤解を恐れず乱暴に指摘すれば、コロナ前、とくに近年の公民館事業には、「人集め主義」「単発事業中心」という傾向があり、「それでよし」とするような風潮も広がっていたのではないかと。事業評価で定量的なアウトプットが過剰に重視されることも、こうした傾向・風潮に拍車をかけてきたと言える。

しかし、コロナ禍のなか、職員さんたちのなかから、公民館事業の在り方を問い直すとする内発的意識が芽生えている。このことこそが、コロナ後の公民館事業を再構築していくための重要な力となるに違いない。

これまで以上にひとりひとりの住民と丁寧に向き合い、住民と共に生活や地域の現実に根ざした公民館事業を編み出していくことが期待される。

る。それは、手軽に参加できる単発事業を多様に用意し、好みに合いそうなものを選んでもらう「フードコートのスタイル」からの脱却である。そして、住民が真に必要とする事業を、住民も参画し、手間暇をかけてつくっていく「こだわりの一品料理店のようなスタイル」への転換を図っていくことを意味する。

ただ単に「学級・講座の実施数」をコロナ前の水準に回復させることを目指すのではなく、「学級・講座ではない形態の事業」や「長期継続的な事業」も含めて、住民の生活や地域の現実に根ざした公民館事業を丹念に展開していくことが肝心なのではないか。

コロナ禍で浮き彫りとなった課題

では、長らくコロナ禍にあつて、私たちの生活や地域には、どのような現実が広がっているのか。そして、どんな課題が浮き彫りとなっているのだろうか。いくつか思い当たるもの列挙してみたい。

①コロナ禍において、どうすれば心身ともに健康で文化的な生活を営むことができるのか。

②多くの人が孤立を深めるなかで、どのように「つながり」を取り戻していくのか。

していくのか。

③コロナ禍で生じた働き方の変化（テレワーク化等）に対応し、ワーク・ライフ・バランスを保つにはどうすればよいのか。

④コロナ禍で顕在化・深刻化した「貧困」「不安定就労・失業」等の問題に対して、個々の生活において、また地域や社会として、どのように解決の糸口を見つけていくのか。他にも、生活上の様々な課題が浮き彫りとなっているだろう。

生活の課題に挑む公民館実践を

こうした課題を、例に挙げたような一般的な認識としてではなく、目の前の住民の生活や身近な地域の現実に立脚してリアルにつかみ取ることで、そして、それらの課題に挑む公民館実践を、住民と共に豊かに創り出していくことが、公民館の今日的使命なのではないだろうか。

コロナ禍が始まった頃の試行錯誤が、コロナ後の公民館を切り拓いていく「一歩」であったならば、「次の一歩」は、コロナ禍で浮き彫りとなっている生活上の課題に腰を据えて挑戦していくことである。職員の皆さんの地域での奮闘に期待を寄せるとともに、私自身も共に努力していきたい。

公民館総合補償制度

公益社団法人 全国公民館連合会

この制度は公益社団法人全国公民館連合会の団体制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は名称を問わずご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポートします。

1. 行事傷害補償
全公連見舞金制度
+ 災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)

2. 賠償責任補償
賠償責任保険(施設所有
管理者特約、昇降機特約)

3. 職員災害補償
全公連見舞金制度
+ 普通傷害保険(就業中のみの
危険補償特約)

補償範囲や対象者が広い制度です。

年1回の手続きで安心です。

掛金には割引制度もあります。

*このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳細については取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

■取扱代理店
(お問い合わせ・
資料請求先)

エコー総合補償サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9

TEL: 0120-636-717(通話料無料) FAX: 0120-226-916(通話料無料)

(受付時間: 9:15から17:00まで)

■引受保険会社

損害保険ジャパン株式会社

営業開発部第三課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL 03-3349-3820(受付時間: 9:00から17:00まで)



(SJNK19-12507) 2020年1月15日作成 [2001K-40]



中国体操「和輪笑の会」

(阿賀町)

和輪笑の会は会員同士の親睦と健康づくりを目的に平成23年1月から活動を始めて、現在の

会員は17名です。

和輪笑の会の「和」は、みんなと和やかに、「輪」はみんなであるく、「笑」はみんな笑顔にという意味があり、人と人との繋がりを大事にしながら心と身体を鍛えているサークルです。活動内容は「NPO法人日本健康づくり協会」の推奨する中国の予防医学から考えられた末病息災の健康体操「練功十八法」を中心に、六調健康法を学んでいます。

六調健康法とは次のとおりです。

調身：姿勢 体位のバランス

調息：呼吸 深長呼吸

調心：ストレスの耐性、癒し

調徳：人との繋がり

調膳：食食同源

調眠：休養、リラクセス

このほかにピラティスによる姿勢改善、骨盤底筋群の整え方や講師を招いてのマクロビや糲等の料理教室なども実施しています。

私達は、阿賀町のシンボル「麒麟山」「常浪川」「阿賀野川」が見渡せる恵まれた環境にある「ふるさと交流川屋敷（阿賀町公民館津川分館）」の中で週一回体操をしています。仲間とともに

健康で動ける幸せをいつも感じています。感謝!!

(講師 長谷川キヨ子 記)



視点

「学びと出会う」

県立生涯学習推進センター

学習情報課長 中村 克行



今年度、県立生涯学習推進センターは、創立30周年を迎えました。令和4年10月15日(土)には、記念事業とし

て、体験イベントを開催し、県内の社会教育関係団体からご協力いただき、ものづくりや実体験ができるブースや団体の活動を紹介するブースを出展いただきました。

イベントブースには、全体で延べ454人の参加がありました。紙の材料で作るバッグや軍手を留めるクリップ、わりばし鉄砲を作るブースや絵手紙を描くブース。災害時の公衆電話の使い方や体験するブースもありました。大人も子どもも、世代を

越えて関わりながら、新しい知識や経験を得たり、交流を楽しんだりする姿が沢山見られた一日になりました。充実した学びの提供と、その出会いの場に関わられた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

県立生涯学習推進センターでは、県民に生涯学習の機会を提供するために、月に三回の無料上映会を開催しています。私自身、映画には詳しくないのであるが、上映会にお力添えいただいている映画ボランティアの会の

方々から名作・傑作を教えてくださいたい、鑑賞後の感想を伝え合ったりすることで、「映画の楽しみ」に出会っています。

上映する作品は、センターが保有する上映権付の映画やビデオ、貴重映像等です。具体的には、邦画・洋画の名作・傑作、貴重な映像を収録したドキュメンタリー作品など、無料上映会ならではの作品セレクトとなっています。

今、映画はテレビ画面はもちろん、オンラインでタブレット

やスマートフォンでも見ることはできますが、ホールの大画面で、多数の観客同士で同じ時間を共有することに意味があります。会場に生まれる一体感を感じたり、逆に鑑賞後の感想はそれぞれに違っていたりします。

新しい学びに出会える上映会を、皆さんの公民館でも開催してみませんか。お貸しできる機材・教材があります。お気軽に県立生涯学習推進センターにお問い合わせください。

掲 示 板

- 関東甲信越静公民館連絡協議会 第3回理事会
日時：令和5年2月10日(金) 13:30～
会場：長野県立図書館(会長、事務局長参加)
- 新潟県公民館連合会 理事会・評議会
日時：令和5年2月15日(水)
理事会／10:00～ 評議員会／13:00～
会場：新潟市中央公民館 403・404 講座室
- 公民館だより編集会議
令和5年1～2月に書面会議

今後の会議の予定

実践記録シリーズ

小千谷市の子育て支援講座

小千谷市公民館

「子育て講座」「子どもの心のコーチング」「ペアレントトレーニング講座」

この3つが小千谷市公民館で行っている子育て支援講座です。教育センターや関係部局と相談し、令和2年度から取組んでいます。本年も内容や運営方法を模索しながら講座を開催しました。

子育て講座

発達障がい等の特性のある子どもたちの子育てに悩む保護者の方を対象とした講座です。市内の総合支援学校の特別支援教育コーディネーターの先生や、発達障がいを専門としている小児科の医師を講師にお招きし、特別支援教育と療育の2つの観点から発



達障がい等の特性について学びました。

講座の最後には30分間の「おしゃべりタイム」を設け、参加者がグループに分かれて講義の感想や普段の子育てで困っていることなどを話しました。話が盛り上がるグループが多く、時間が足りないほどでした。

子どもの心のコーチング

子育て世代全般を対象とした講座です。NPO法人ハートフルコミュニケーションの土田陽子さんを講師にお招きし、小学生のお子さんに『やる気』を出させるためのかわり方を学びました。「コロナの感染状況が気になる……」「子どもを家に残すのは不安……」など会場参加が難しい方のために、小千谷市公民館では初めて、オンライン参加もできるハイブリット形式での講座開催に挑戦しました。

会場でもオンライン上でも、参加者同士でコミュニケーションを取ることができ、終始和やかな雰囲気で行われました。



ペアレントトレーニング講座

発達障がい等の特性を持つ子どものかかわり方を具体的に学ぶ講座です。新潟大学教職大学院の長澤正樹教授を講師にお招きし、全3回の連続講座として開催しました。支援を要する子どもの保護者だけでなく、「仕事で役立たせたい!」という学校の先生の参加もありました。

また、教職経験のある方からアドバイザーとして各グループで助言をしてもらいました。参加者はアドバイザーに相談しながら子どもの問題行動へのかかわり方の計画を立て、計画を家庭で実践し、結果を講座内で報告しました。「子どもの問題行動が改善された」「かかわり方を変えたことで親がイライラすることが減った」などという嬉しい報告もありました。

* * *

講座の後に受講者へ話を聞くと、子育てに対する前向きな気持ちや仲間がいることへの安堵の気持ちなど、プラスの感想が多く聞かれました。ぜひ多くの方から同じような気持ちを感じてもらいたいと思うのですが、なかなか参加者が集まらないのが現状です。関心があっても講座へ参加できない方へどのように働きかけていくかが、今後の課題だと考えています。



素顔拝見



見附市葛巻公民館

主事 榎木 健太さん



公民館のさわやか元氣印、榎木健太さんを紹介します。とても

珍しい苗字で「もみのき」と読みます。クリスマスツリーとしてよく見かける木と同じ名前です。

もみの木は幹が太く、厳しい寒さの中でもイキイキとした常緑樹ですが、こちらの榎木も芯が太く、一年中元気に館内を走り回っています。しかし、おだてに弱く、マツ花粉のよつにすぐに舞い上がりします。持ち

前の明るさから誰とでも分け隔てなく接することができ、地域の誰からもモテモテです。

現在も仕事が終われば野球三昧。ポジションはキャッチャー。状況を素早く的確に判断し、サインに指示を出します。リーダーシップには定評があり、今後の公民館を引っ張ってくれること間違いなし。

整いました。クリスマスとかけまして、公民館と解きます。その心は…どちらも「もみのき」が必要です。これからも一緒に公民館を盛り上げていきましょう。

〔見附市新潟公民館 野本博也記〕

インフォメーション

新潟県生涯学習推進センター「ラ・ラ・ネット公民館」をご活用ください。

「ラ・ラ・ネット公民館」は新潟県立生涯学習推進センターが運用している県内公民館の情報発信・共有サイトです。公民館を通して地域を学び、地域とのつながりをつくっていくために「ラ・ラ・ネット公民館」を活用してみませんか。

「ラ・ラ・ネット公民館」トップページ →

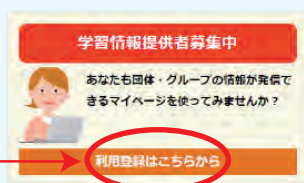
〈情報の登録方法〉

各公民館が「ラ・ラ・ネット」のマイページで情報を登録すると「ラ・ラ・ネット」及び「ラ・ラ・ネット公民館」の両方に情報が掲載されます。

〈マイページ利用登録手続き〉

マイページを利用するためのID・パスワードの取得は「ラ・ラ・ネット」トップページにある下記のパナーをクリック後、メールアドレスを登録し、返信されてくるフォームに必要事項を入力してください。

ここをクリック



「ラ・ラ・ネット」の掲載情報から
公民館情報をピックアップして表示！



ラ・ラ・ネット公民館 URL

<https://www.lalanet.gr.jp/kouminkan/>

または

ラ・ラ・ネット公民館

検索



サッカーワールドカップでの日本戦に一喜一憂された方も多かったと思います。私もその一人です。そんな中で第2戦のコスタリカ戦後に選手などへの過度な誹謗中傷の書き込みが、ネット上で多くあったといいます。評論家が名前を出して批判するのは責任を伴う言動ですが、ネット上での匿名による批判は無責任だと考えます。SNS上の特定の仲間への発信だとしても、リツイートされて不特定多数の目に触れる危険もあります。匿名での発信は責任の所在がはっきりせず、許されているのか、私は疑問を持っています。（五井）